

*****目次*****

- P1 今号の TOPICS 福島 いずみ
御旅屋さんを偲んで 九津見 明
- P2 仲間たちの近況報告 (1)
1 班 高原 富佐子
2 班 大石 博司
- P3 仲間たちの近況報告 (2)
2 班 玉尾 洋一
4 班 上田 忠司
- P4 専任幹事ご挨拶 寺尾 修
リレー随筆 竹山 秀規
- P5 私の玉手箱 前田 長治
- P6 樹形ウォッチング 遊上 眞一
- P7 絵画コーナー 玉尾 ひとみ
- P8 写真コーナー 今本 芙佐子
- P9 俳句・川柳 山上 恵子
コーナー 池田 清

御旅屋 瑛一さんを偲んで

九津見 明

今年の年始早々に私が受け取った Biggest News は、御旅屋さんの訃報であった。大ショックだった。闘病中とは知らなかった。彼も私もシニア自然大学 10 期、面識が出来たのは高等科 3 期への入科後であった。また、同じ大学の化学系卒と知り、急速に親しくなった。

何事でも気安く相談できた素敵な男で、頼まれ事は殆ど断らない頼り甲斐のある人物だった。彼は、高等科終了後、平成 17～24 年は本部の理事、平成 25～28 年は副代表理事を勤め、シニア自然大学校の運営・発展に大変貢献した。その活躍振りには常に驚かされていた。もう忙しくすることもないでしょう、好きな野鳥にでも思いを馳せながら、安らかに眠ってください。

合掌



今号の TOPICS～副代表ご挨拶

コロナ禍の中で

副代表 福島 いずみ

感染拡大防止のため、自然と文化科の活動も自粛を余儀なくされ、実働としては不完全燃焼の 1 年でした。しかし、その制約の中で、いかに実りある活動を保障するか、大沢代表を先頭に運営委員会、各委員会幹事、各班長の皆さんが真剣に考え、手探りで努力をしてきた 1 年だったと思います。

以下印象に残る行事をふりかえってみましょう。

①近所のサクラ調査…児玉さん提案で、密にならず、散歩にもなり、また科員の居住地が広範囲であることも利点となる、画期的アイデアと毎週送られてくるサクラだよりで随分勉強もしました。個別に続けていただいた箕面のサクラ調査記録とともに結果は科内発表会で報告され、今年も引き続き近所のサクラを調査し昨年との比較をみようとしています。

②但馬高原バス旅行…論議の末、2 席を独り占めで感染対策、ちょっと贅沢なバス旅、マスクをし、換気をしてでも、やはり仲間と好きな植物の話ができるのは最高に楽しいひと時でした。何度も交渉を続けてくださった皆様に感謝です。

③箕面・六甲山・丸山湿原・光明池・神於山・五月山の観察会

④ならまち散策と国宝館、亀岡の町と花明山植物園散策

⑤明智光秀と坂本城、神戸・六甲の生物の話が聞けた講演会

⑥箕面公開観察会を 2 回開催でき、講座生に好評だったこと

⑦オンラインでの会議…皆さんの顔が見えて嬉しかったこと
雨で中止になった企画もありましたが、これだけのことができたのだなあと改めて、企画・交渉・下見・案内をされた皆様に深く感謝申し上げます。(私は何も貢献してないの)

とはいえ、自粛で生じた自由な時間、皆様はどうお過ごしになったでしょうか。案外、有意義に活用されたのではと思います。私も今まではできなかったことが 3 つできました。

①ひとりで近隣の山を歩く…近所の山道を探検する楽しみができました。シダやイネ科、カヤツリグサ、キノコ、そして昆虫、野鳥、知らないものがいっぱいで、ワクワクします。

②チェーンソー講習会…3 日間通って資格をとり、近所の里山保全活動で活用しています。竹伐りも楽しいけど、チェーンソーでハリエンジュなどの雑木を伐採するのは爽快です。

③スマホ・デビュー…まだ使い方がよく分かりません。でもヤマレコで地図を見られるようになったので、山歩きにはとても便利で、方向音痴の私にはいいお守りとなっています。

それでも、やっぱり、皆さんと楽しく歩き、発見し、いろいろ教わる、あの貴重な時間を渴望している毎日です。

ミズオオバコ

1班 高原 富佐子

初めてミズオオバコに出会ったのは4年ほど前西谷の森公園でした。たった1輪でしたが遠目にもよく目立っていました。近寄ってみると淡紅色の花弁は透き通るように薄げで強く印象に残りました。



遠い存在だと思っていたその花に再び出会ったのは、私が調査活動に参加している千提寺ビオトープでした。このビオトープは新名神高速道路建設のため消失した10数か所の

ため池に自生していた希少種を保護育成するために作られました。

2年前(2019年)の夏、突然ビオトープの水面にミズオオバコの花が可憐な姿を現したのです。数えてみると25株もあり、8~9月にかけて次々とたくさんの花を咲かせ楽しませてくれました。



10月には種子を確認しました。波状の翼のある苞鞘に包まれた果実の中には2mmほどの種子がたくさん詰まっていた。種子を持ち帰り、深さ20cmほどのバケツに播種しました。翌年4月にミズオオバコとは思えないような



細長い葉が発芽し、夏が近づくとつれだんだんとオオバコ似の幅広い葉に成長していきました。8月が過ぎ9月になってよ

うやく花径1.5cmほどの花弁の透き通った水中花が咲きました。一方ビオトープで咲いた花は3~5cmもあり我が家のバケツの花の2倍以上の大きさ

でした。ミズオオバコの花は水深によって大きさが変わることがよく分かりました。これからもビオトープで大きな花をたくさん咲かせたいと思っています。

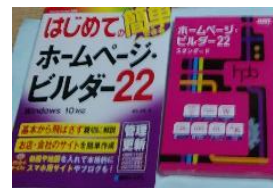


私の近況

2班 大石 博司

活動自粛という自然大学校発足後初めての変則事態の中で近況報告を書くことになり、不思議な感じがしています。何よりも、先にお亡くなりになった御旅屋さんの思い出から(悲しいですね)。科では遥か先輩ですが、委員会でも気軽にアドバイスを頂き、また科とは別の自然大学校の講座でも大変お世話になりました。大学のいろいろな活動を立ちあげられお世話役を続けられていたことを改めて知り、ご功績に心からの敬意を表します。良き先輩であり温厚で実行力のある誠に立派な方でした。合掌。

ここからが近況です。超高齢の母親を抱えているせいもあり、感染リスクを避けるためほとんど外出しない日々を過ごす中でしたが、この期間での個人的なトピックスはホームページづくりに取り組んだことです。現役時代の仕事関係である程度のパソコンスキルはありましたが、ホームページ作りは初めての体験。科の広報・玉尾さんのアドバイスを受け、いろいろなガイドブックを当たり、結局、下図の本とソフトに行き当たりました。これを頼りにコ



ツコツと作り始めたのですが、難しいものです。会社だと詳しい人間が必ず近くについて適宜教えてもらうことができ、あっという間に習

熟するのですが、今回は自分のみ。しかしながら、インターネットにはありとあらゆることが検索可能でこれを頼りに何とか何とか。一応、自分のパソコン内では一連の作業は出来るようになり、ひとまず完成。ただ、最後の一番大事な公開の作業に手こずっているのが現時点(2/25)の状況です。

右は今回作ったホームページのあるページで、ちゃんと他のページに跳ぶボタンもあり、詳しい資料も見られるように作れま



した。我ながらなかなかのもの。この作業でここ3ヶ月はパソコンにへばりついていたので、山歩きは勿論散歩もほとんどせずで、足の衰えが心配。3月から徐々に足を戻し、夏は東北への旅も予定しているので、野外活動に集中したいと強く思っている今日この頃です。

自然大学校 自然大学校 自然大学校

トップページ 検索 記事一覧 ブログ お問い合わせ

干潟の生き物・調査記録

年度	日時	場所	記録	写真など
2020年度	10.01(木)	野間川	☑	
	9.24(木)	近木川(地蔵橋)		雨天中止
	8.06(木)	近木川		
	10.10(木)	野間川	☑	
2019年度	7.4(木)	近木川		

コロナ禍の生活行動

2 班 玉尾 洋一

新型コロナの第3波がやってきて、年始からまた緊急事態宣言がなされた。春の緊急事態宣言よりは緩く、飲食業のみの時短要請となり、街は人で溢れていた。しかし病床は満杯であり、十分なケアが出来ない、入院先が見つからないなど報道されて、春よりも慎重になった。

日課の1つは散歩だ。体を動かさねば、衰える。ジムは営業しているが、やはり怖いので休会にした。10000歩を目標に歩く。久宝寺緑地が4kmほどのところにあり、そこによく行くのだが、住まいは準工業地域にあるので環境は悪い。細い道を車、バイク、自転車が行きかう中を、前後、左右を気にしながら歩く。近くに緑がある人が羨ましい。枚岡神社にも行く。生駒山頂の入り口であり、緑が多い。ウメで有名だが、ウメ輪紋ウイルスに汚染され、全て伐採されている。残念だ！そのコースは20000歩に達し足腰が痛くなる。歩き回ったお陰で、近隣の地理に詳しくなった。30年暮らしているが、こんなところに学校や幼稚園、レストランなど発見が多かった。

日課の2つ目はパソコンだ。ボケ封じのためにも良いと思い、ホームページ（HP）の改良をしている。今扱っているHPは「自然と文化科」、「ならなぎ」、「個人（四季の樹）」の3サイトだ。

「自然と文化科」は①箕面の植物地図②出欠管理を作った。①は箕面観察会の地図に植物をプロットした。植物の位置が正しいか再度現場に行き確かめる必要がある。植物名をクリックするとその詳細がポップアップするようにした。②は活動で出欠が必要なとき、web上で申し込めるサイトである。班をクリックすると名前を選べるようになっていて、それをクリックするだけ、班幹事に送信できるようにした。入力が簡単なので、パソコンが苦手な方も可能だと思っている。

「ならなぎ」、「個人」はFULL画面対応にした。今までは幅940pxであったが、広くして画面いっぱいになり、視認性を良くした。こうした場合、スマートフォンで見ると、画面が乱れるので、改良中だ。

これだけでは飽き足らず、草本を主体とした4つ目のHPを作成中だ。コロナをマイナス思考からプラス思考に捉えて、今でしか出来ないことを模索していきましょう！

花菖蒲

4 班 上田 忠司

「いずれ菖蒲か杜若」この菖蒲はアヤメと読みます。アヤメは文目とか綾目とも書かれます。どちらも似ていて優れており優劣がつけづらいこと。別に、区別できないことのためなどとして使われます。アヤメ、カキツバタに加え、よく似た花にハナショウブがあります。

区別は花に着目すると容易で、アヤメ、カキツバタ、ハナショウブの順に咲きます。花が咲いているともっと簡単にアヤメは花卉の基の黄色い部分が綾目（縞模様）、カキツバタは白い筋模様、ハナショウブは黄色い筋があります。また、アヤメは乾いた土に生え、カキツバタは水の中あるいは水辺など湿ったところに生えます。ハナショウブは湿地ですが水中ではありません。よく菖蒲園に行くと水を張っていますが、見栄えをよくするために池の中では根腐れするので栽培はできません。

ハナショウブはアヤメ科のノハナショウブを改良した園芸種です。園芸華やかなりしお江戸で江戸ハナショウブが作られ、その後肥後、伊勢でも栽培されるようになりました。江戸系、肥後系、伊勢系などと言われます。



さて、そのハナショウブを育てて30年以上になります。連作を嫌うため、地植えでは2～3年、鉢植えは毎年植え替える必要があります。植え替えないとどうなるか、根茎がだんだん老朽化し樹勢が衰え花が小さくなっていきます。私は花後に株分けし、3号ポット植で成長させます。生育した苗を9月に植木鉢に植え替えます。一番手がかかるのが花後の植え替えです。株を鉢から抜き、土を落とす。さらに根を水で洗い土を落とす。ハサミで1株ずつに分けポットに植える。ただ、ポット苗でも鉢植えでも簡単に枯れてしまう場合があるので、ロスを考えて1種10鉢程度を段取りしています。

自粛について

4 班 寺尾 修

研究発表会の担当やら「武田尾の草花たち 総合版」の発刊準備等で精一杯の作業があった昨年度に比べ、緊急事態宣言に始まり緊急事態宣言で終わった2020年度でした。本来は何も出来なかった本年度に続き、次年度も担当を継続しなければならないところ、専任幹事交代の方向をご承認戴いたことについて、先ずは皆様へのお詫びと共に深く感謝申し上げます。私事ではありますが、春からの自粛期間で過去2回アブレーション処置を行った心房細動の再発傾向にあり、現在も完治しない状況です。3度目の施術については主治医と相談しつつ、春の気温上昇を待つことにしました。

さて、この間「自粛」という言葉をいやというほど耳にしましたが、この意味は金田一春彦著の国語辞典では“他から強制されず自分から進んで言動を慎むこと”とあり、このことを要請した「政府」の関係者の中に、この言葉の逆の行動をとった者たちが複数いるという矛盾に腹立ちを抑えられません。さらにはとんでもない言動で日本オリンピック委員会の会長を「辞任」することに至った某会長は、この言葉すら知る由もないのではと思われます。これを他山の石ととらえて行動すべきと深く思い至る期間でした。

一方、「自粛」を重んじ、家で不足のない食事を続けるだけでは、何も解決しないことを深く考えさせられたテレビ番組がありました。1月から放送が始まったNHKの「2030 未来への分岐点」です。1月の第1回では温暖化に関することで、氷河が解けて世界の水が増えて行くような命題でした。第2回は「飽食の悪夢～水・食料クライシス」の命題で、世界のこの現状が続くとやがて地球全体の水・食料ともに枯渇する。自国の経済のみを重んじるだけでは、世界全体が深刻な状況になるという内容でした。食料自給率が40%に満たない我が国のことを鑑みれば、より深刻な未来が待っているのではないかと心配します。この自粛期間で職を失い困窮している人が多くいる状況でも、日本の食料の30%は廃棄されている現状があります。既にこのことに対し行動を起こしている人々がいるとの報道が過去にもありました。大きな社会貢献活動は出来なくても、まずは我が家を含む近い所から無駄をなくしていきたいと思います。

次年度は要請された自粛から解放され、“Non-profit”を忘れず、楽しく自然と文化を享受できる日々に戻ることを願うばかりです。

コロナ禍中での生活改善「歩く！」

4 班 竹山 秀規

年末・年始の気の緩みか？又、第3波の感染が広がってきた。当初の外出自粛は12/4～15であったが、12/29→1/11→2/7へと延長しても一向に収まる気配が無く、東京では感染者数は連日1,000人超、大阪でも500人前後という有様だ。

何時もなら、日中はサークル活動、夜は十数年来続けているテニス・スクールで汗を流していたが、昨年4～5月はすべて閉鎖となり、外出せず数日間、家に籠っただけで、すっかり体調を崩してしまった苦い経験を思い出す。

人間の体は良くしたもので、食べ物から摂取したエネルギーと運動により消費したエネルギーがバランスよく保たれていることで、健康状態が維持されている。そして若し数日でも、この運動機能を使用しなくなると、驚く程のスピードで筋力、持続力、即ち体力が失われていく事が分かった。

この昨年来の悪夢を又、繰り返すことになると思うと、憂鬱な気分になるが、今年はコロナに対する考え方を变えて、先ずは家に籠っていないで一日に一度は外に出、新鮮な空気を吸い込んで、散歩する、買い物に行く、ことに決めた。このことは決して不要不急の外出では無く、極めて有用で健康維持に不可欠な活動であると思う。

むしろ気を付けるべきは、換気の悪い「密閉空間」で、多数が集まる「密集場所」で、間近でしゃべる「密接場面」の3密であり、一人二人で外出し、外の空気を吸い、太陽の光を浴びながら歩く事の方が、遥かに健康的である。

運動の重要性について、専門書の記事によると「歩く」という動作は、簡単に行っているように見えるが、多くの足の筋肉やお尻、腰、胸、背中、腕の筋肉も使用して歩いている。つまり全身の筋肉を使って初めて「歩く」ことが出来る訳であり、また重心を移動させて前に進むためにはバランス能力、さらに長い時間動く事が出来る心肺能力も必要になってくる・・・と書かれてある。

コロナ禍の中で、自身の活動が制限されている状況ではあるが、むしろこの期間を逆手にとって普段、あまり意識していない「歩く」ことの重要性を再認識して、一日に15～30分程度、歩く習慣を身に付けて行こうと思う。(幸い、近くに幾つか公園があり、散歩する場所には、事欠かないので。)

熊野古道（小辺路、中辺路）完歩

3班 前田 長治

【小辺路テン泊は敗退】7月29日～7月31日

7月29日に高野山に前泊し、熊野古道小辺路で本宮大社を目指す。予定は、高野山（前泊）～伯母子峠避難小屋～十津川温泉～本宮大社の中2泊3日（場合によっては三浦峠テン泊の3泊4日）であった。荷物は15kg越えてやはり辛い。5:27にゲストハウスを出発した。コースタイムから約1時間遅れで、東屋に到着し、昼食にした。OD缶にバーナーをセットし、点火を試みたが点火せず。何回か試みるも点火せず。昼食をあきらめ、行動食を食べ、大股の民宿を目指す。大股のバス停からこの民宿が遠い。明日の行動を色々考えた。①明日7:30のバスで高野山に戻り帰宅する。②荷物を宅配便で送り、三浦の民宿に宿泊し、旅を続ける。今回は、最低1回は小屋やテン泊であったので、①を選択した。歩行時間：9時間、距離：19km

【小辺路完歩】11月4日～11月8日

7月挫折のリベンジを女性3名+男性2名を誘い、リベンジを果たした。高野山の宿坊前泊をした。今回の登山で一番寒かった。もちろん、昼ごろに到着し、お大師様にご挨拶をおこなった。

前泊は、西門院の宿坊に参籠（宿泊ではない？）した。初日は、晴天で元気よく出発した。黄葉や紅葉を楽しんだ。だれかが、「前回の挫折は運命であった。」と言った。大股集落に到着し、お迎えを依頼して、かわらび荘に到着し、女将の送り迎えで野迫川温泉に入浴出来た。前回はこんなサービスはなかったのに。女性は大喜びであった。

二日目は、大股集落まで送って頂き、急登を登った。菅小屋跡の避難小屋は大変綺麗であった。テント適地でもあった。夏虫山にピストンをした。伯母子山（1344m）を踏んで、伯母子峠に到着した。ここの避難小屋も美しかった。トイレも併設されていた。天候も良く、歩を進めた。宿泊は、五百瀬（いもせ）の農家民宿山本と政所に分宿。女性は政所で、その日は女性のみとなった。我々は、お迎えを依頼した。以前は十数軒の民宿で農林業体験をしていたが、補助金が2年で中止になり、今は古道客のために、この2軒のみを残したとのこと。風呂もあり、ビールもありで満足。今は外人さんが来ないので、客は少ない。

三日目は、小雨であった。大降りにならなくて幸い

であった。もちろん、送ってもらった。十津川温泉に向かって出発した。本日は、2か所のつり橋を渡った。お迎えが無く、かなりコースを外れて歩く。温泉が良かったので、女性たちの評価は下がる。

四日目は、もちろん送りはなく、徒歩で小辺路コースに戻った。本日のメインイベントは果無峠越えである。果無集落では、水田があったのには、驚いた。本宮大社にお参りして終了した。歩行時間：30時間、距離：65km

【中辺路完歩】11月25日～28日

9人（女性3人、男性6人）のグループ登山。私にとっては、小辺路に続く熊野古道第二段になる。前泊をしなかったで、滝尻王子の出発が11時となった。昭文社の山地図より、熊野古道マップが大変役立った。小辺路と違って、人工林が多く、景色が望める所が少ない。

本宮大社は、人出があったが、運よく、無人の状態写真が撮れた。二日目は、本宮大社からバスで速玉大社に行き、お参りをし、バス移動し、紀伊勝浦の温泉民宿に宿泊した。

紀伊勝浦駅から路線バスで、大門坂に向かう。中辺路三日目は、大門坂から小口自然の家を目指す。那智大社から大雲取越になる。やはり展望がない。船見茶屋跡からは、勝浦湾が一望出来た。石倉峠手前で通行止めになり、迂回路に行く。石倉峠への登り下りはなかったが、平坦路を1時間程度歩いた。越前峠まで登り、後は下りとなるが、約800mの下ることになった。もくもくと下る。小口自然の家には、ギリ明るい内に到着した。廃校となった中学校の校舎をリノベーションしたとのこと。廊下や洗面所に風情があった。

中辺路の最終日である。小口から請川經由本宮大社。ガイドブック等では、小雲取越は、請川までとなっているが、本宮大社まで行くことにした。百聞ぐらで展望が開けた。バスまで時間があったので、大斎原までいった。もちろん、再度本宮大社にも詣でた。歩行時間：32時間 距離：72km



樹形 ウォッチング

4班 遊上 眞一

ピンク色の若葉 木々が芽吹き展葉する3月から4月にかけて、一瞬 ピンク色の美しい葉を見せる種があります。昨年 宝塚市内を歩いているときに見つけた そんな木々たちをご紹介します。



オオバベニガシワ 3月26日 売布神社で撮影
1本の幹が直立するだけで、枝を出しません



アカバナトキワマンサク 4月15日 雲雀丘で撮影



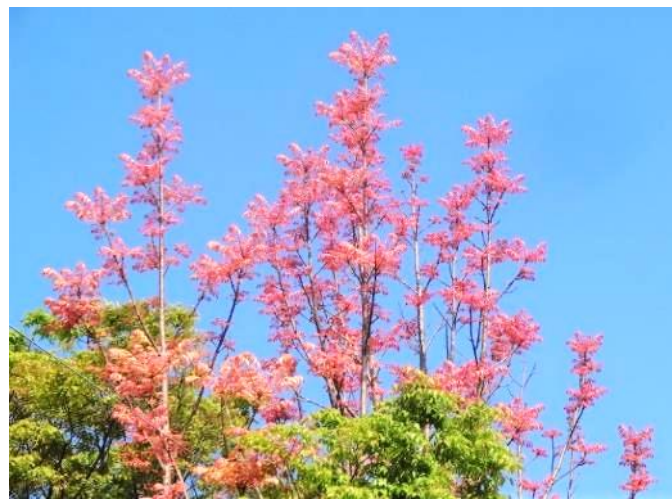
ケムリノキ 4月15日 雲雀丘で撮影
スモークツリーやハグマノキの別名があります



フラミンゴ 4月15日 雲雀丘で撮影
トネリコバノカエデの栽培品種です



アカメガシワ 4月14日 雲雀丘で撮影



チャンチン 4月23日 山本で撮影

画材のある部屋

1 班 玉尾 ひとみ



そばの花

1 班 今本 芙佐子



実を食用にしている。花粉の媒介は訪花昆虫に行われる。

白い花もある。
花弁に見えるのは萼で5枚ある。



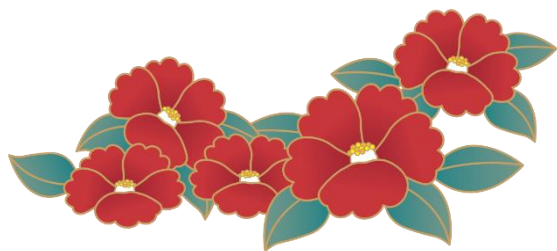
川柳

- ・初夢はコロナが終息した知らせ
- ・悪いとは思ってないくせ頭下げ
- ・割れたハート接着剤では付きません



俳句

- ・後ずさり椿の大輪撮るスマホ
- ・青空を突いて百花の春景色
- ・一重八重今を盛りに椿咲く



俳句

- ・水仙の揺るる断崖日本海
- ・大阿蘇の頂き目指し下萌ゆる
- ・春眠や程よき揺れの村のバス
- ・山焼の点火を急かす風の向き



緊急事態宣言がなされた時期ではありましたが、皆様より投稿いただき、発刊できました。感謝申し上げます。来期もよろしくお願い申し上げます。

広報委員会